

5 西原村 西原中学校

発災当初は下水道が使用でき、プールの水があったため既設のトイレに手動で水を流して使用。仮設トイレは3~4日後に8基設置、上水道は5日後くらいから復旧した。高齢者、要介護者用には**介護用ポータブルトイレに携帯トイレ(便袋)をセット**して使用されていた。発災時には**トイレ用の清掃道具が不足**していたとの事。視察時はライフラインが復旧して既設トイレは使用可能となっていたが、車避難者のために仮設トイレも併用。



▲和式型の仮設トイレ



▲手洗い用水と消毒用アルコール



▲1,173戸の断水が続く西原村の避難所では自衛隊による給水支援と「お風呂」支援が行われていた。



6 西原村 山西小学校

発災時は断水したが、貯水槽の水があったため既設のトイレを手動で使用。仮設トイレも早い段階(2日後ほど)で設置された。ライフラインはほぼ復旧しているが車避難者の為に仮設トイレも併用。



▲和式型の仮設トイレをアタッチメントで洋式化
高齢者を始めとして洋式の要望は多く、既存の和式型仮設トイレを洋式化するアタッチメント用品が活躍している。洋式化後のトイレトーパーの位置に工夫を期待。

まとめ

今回の熊本地震を東日本大震災と比較すると、被災地域が狭く、集中的に対応できたため、被災後2~3日と早い段階で仮設のトイレが設置され、衛生的に保持されたものと思われま。そこには東日本

大震災後に制度化された**政府のプッシュ型支援**(※)が大きな役割を果たしました。必要な物資が比較的早い段階で被災地に到着していたことは、これまでの震災からの教訓が生かされたと言えるでしょう。ただし、初めての運用とあってか、物流拠点から避難所への

物資の配布については混乱が見られ、近くに物資が来ているのに避難者の手元に届かないという問題も起こりました。その点は今後の制度の改善が望まれます。

今後は、国の支援が到着するまでの間、家庭や企業、自治体などでトイレを確保することが求められます。首都直下型地震を想定して、他県に比

べ防災意識の高い東京都さえ、現在、災害用トイレの備蓄率は17.6%に留まっています。南海トラフ地震、首都直下型地震の想定域のみならず、「**どの地域でも大地震は起こる**」ということを念頭に置き、自治体、企業から家庭に至るまで、全国的に災害用トイレの備蓄等の対策を早急に推進することが重要だと思われま。

※発災当初は被災自治体が正確な情報把握に時間を要する等、必要な物資量を迅速に調達することは困難と予想されるため、国が被災自治体からの具体的な要請を待たないで、避難所・避難者にとって必要不可欠と思われる物資を調達し、被災地に緊急輸送すること。

編集後記

益城町にあるアメニティのFC加盟店も建物が半壊する大きな被害を受けました。アメニティネットワークでも、震災翌日から福岡の加盟店が応援にかけつけ、5月11日には当社社長や、神戸・福島で被災した有志が中心となって現地を訪問しました。自宅が被災し、避難所やビニールハウスでの生活をしながら復興に向けて仕事を再開している社員もおります。かわや版でも、被災地熊本への復興を応援していきたいと思われま。



平成28年4月14日以降、熊本県を中心に発生した地震の被害によりお亡くなりになられた方に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

熊本地震 ~被災地トイレの現状

特集



今回の熊本地震において、政府の要請で携帯トイレの支援も行っている株式会社総合サービスの新妻普宣社長から、避難所のトイレの様子についてレポートが届きました。かわや版編集室では、災害時のトイレの状況を知る大変貴重な資料と捉え、被災地の支援復興と今後の防災対策の一助になることを願い、このレポートをお伝えしていこうと思われま。

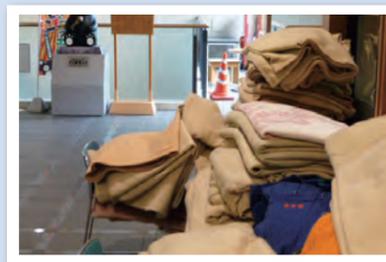


Profile
にいつま ひろのぶ
新妻 普宣
災害時や介護などに使用する携帯トイレ・簡易トイレを手がける株式会社総合サービスの代表取締役社長。阪神淡路大震災から現在に至るまで被災地の現場で蓄積された知識やノウハウを生かし、各地で防災対策についての講演活動なども積極的に行っている。

熊本地震 現地視察報告

平成28年5月7日(土)、今回の熊本地震で被害の大きかった熊本市や益城町など、視察した当時断水になっていたエリアを中心に8箇所の避難所を視察しました。視察では、発災から現在にいたるまでの避難所の衛生環境、トイレで困っていることの聞き取り、携帯トイレの配布状況、マンホールトイレの設置状況などを調査しました。熊本市内のホテルは避難者の「みなし避難所」となっていることが多いと聞いていたため、当日は約100km離れた佐賀市を拠点として現地入りしました。

まずは熊本県庁へご挨拶。現在でも県庁職員は休日返上で対応。県庁のロビーには毛布と支援物資の山が並ぶ。



熊本城の城壁も崩壊。



中面に続く

1 熊本市 西原中学校

熊本市内のマンホールトイレ(マンホールから下水道に直結できる災害用のトイレ)の設置場所が、8カ所あるとの情報から訪問。



▲体育館裏に設置されたマンホールトイレ。中は洋式。5基中1基は車椅子対応型。排泄後の流下用と思われる用水もバケツに用意されている。



▲「マンホールトイレ」用の親子蓋



▲トイレトーパー/シート型のトイレクリーナー/消臭スプレー



▲トイレ後の手指消毒用のアルコールスプレーとペーパータオル



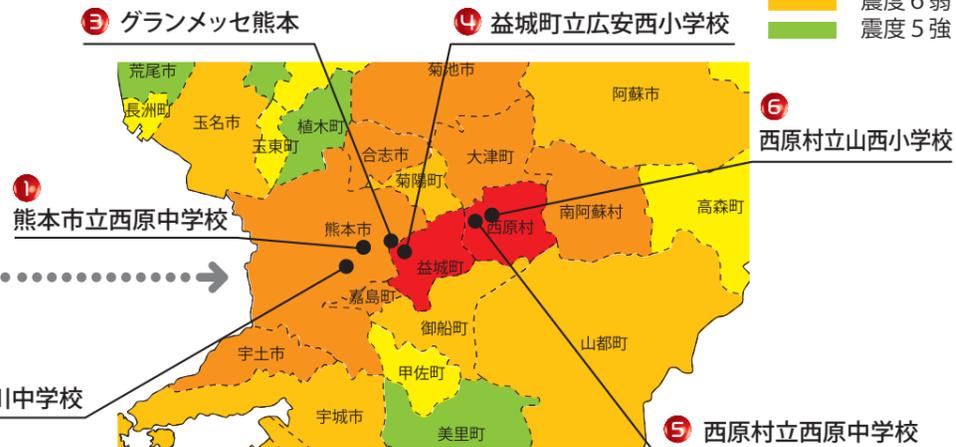
▲当時の気温は26℃程度。トイレ内にはすでにハエや蜂などの害虫が発生。これからさらに気温が上昇し、「害虫対策」は今後の課題と思われる。

2 熊本市 白川中学校

訪問時、熊本市内は既にライフラインが復旧していた為か、設置されていたマンホールトイレはすでに撤去されていた。当日は学校再開に向けて被災した下水道を工事していた。



《視察した避難所と4月16日1時25分発生地震の各地の震度》



3 益城町 グランメッセ熊本

普段は展示会やイベント会場として利用されているグランメッセ熊本。建物内は損壊し立ち入り禁止だが、2200台収容の駐車場には車避難者が多数。発災当初は自衛隊が掘削した「穴掘りトイレ」で対応。4月18日ごろより「仮設トイレ」9基が設置された。しかし、ここは町の「指定避難場所」ではないため、「携帯トイレ」は支給されなかったとのこと。



▲避難所本部



▲駐車場には車避難者やテントが多数。



▲紙おむつはサイズ・機能別に区別されていた。

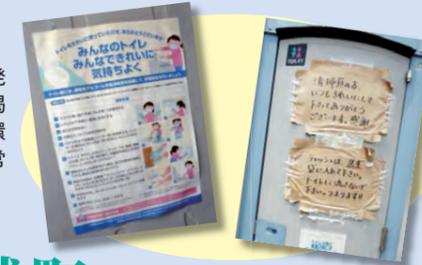


▲仮設トイレ15基は男性用、女性用、共用と分けられていた。



▲当初は和式型が多数だったが、被災者から洋式希望の声が多く、訪問時は洋式型が多数設置されていた。

▶トイレ使用のマナー啓発ポスターがトイレ内に掲示されている。トイレ環境の衛生管理には、非常に気を使っていた。



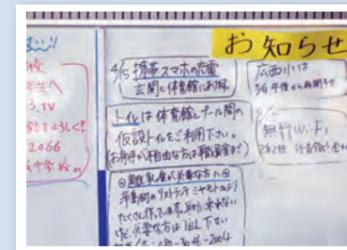
◀グランメッセ熊本の清掃メンテナンスをされている会社が、継続して仮設トイレのメンテナンスを行っているとのこと。



▲手洗い用の給水タンクと投光機。手洗い石鹸と消毒スプレーも用意。

4 益城町 広安西小学校

200人で5基の仮設トイレを使用。朝は30人くらい並ぶ状況。発災直後3日間くらいは和式型のトイレしかなく、特に高齢者は苦勞されたとのこと。



▲当避難所も下水道不全。全員が仮設トイレを使用。



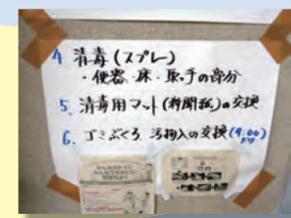
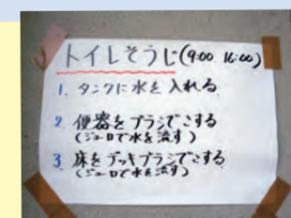
▲男女共用の仮設トイレの隣には、「女性専用エリア」も設置。



▶トイレで紙が詰まった時の「ポットンぼう」(ほうきの先を切断して作った現場のアイデア用品)。各トイレブースに常備。



▲新聞紙に消毒液を浸した「消毒用トレー」。トイレ使用後に靴の裏を消毒する。



▲手作りのトイレ清掃マニュアル。こちらにもトイレの衛生管理には非常に気を使われている。